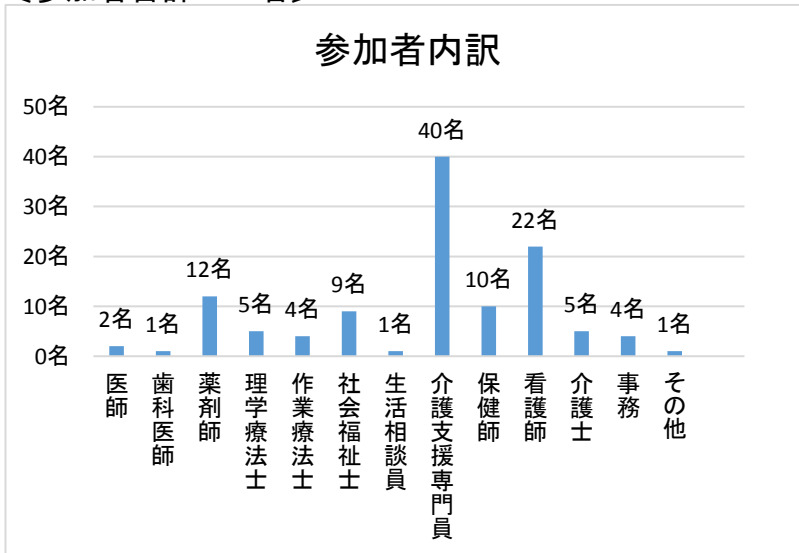


平成28年度 在宅医療・介護連携推進に係る多職種交流研修会 アンケート結果合計

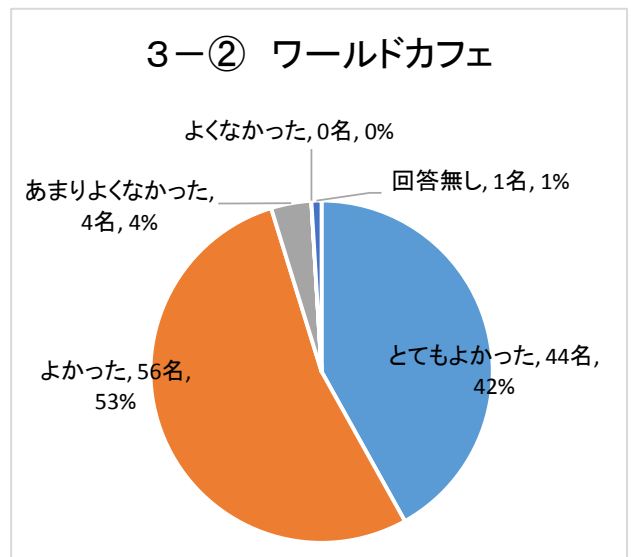
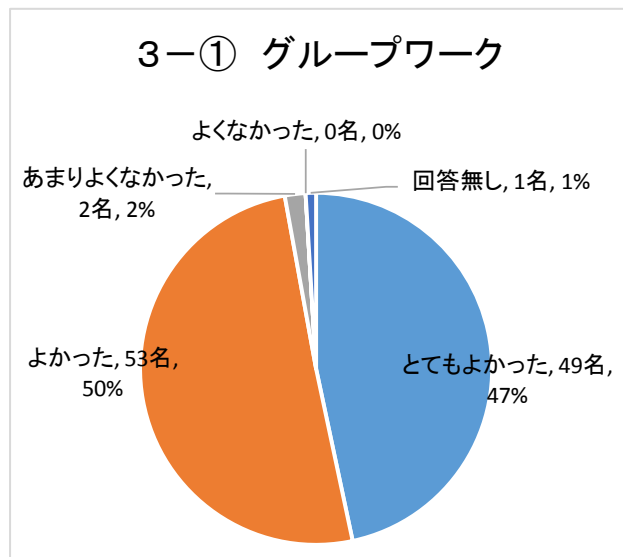
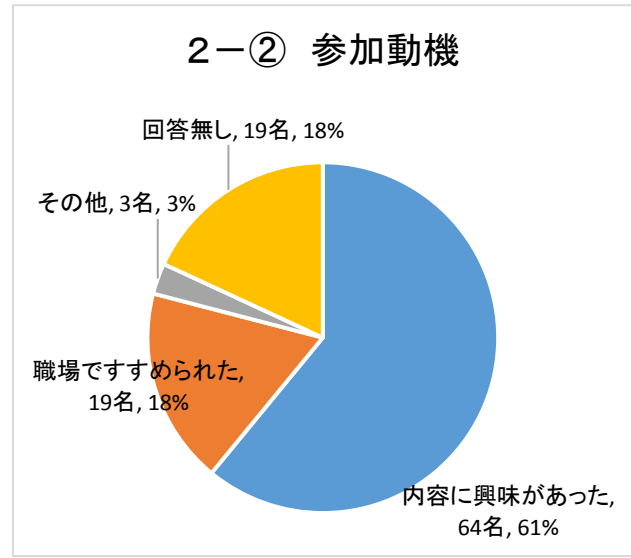
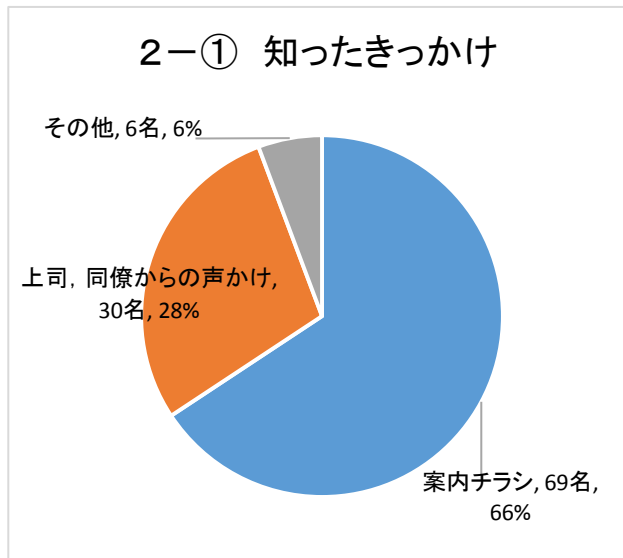
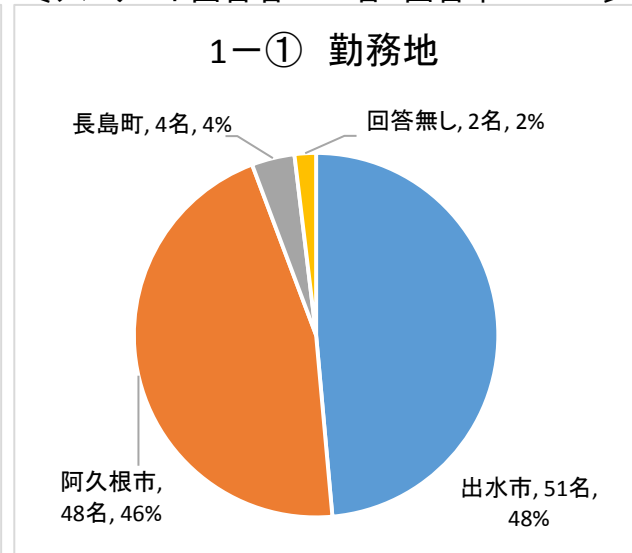
開催日 平成29年1月31日(火) 出水市中央公民館
平成29年2月 7日(火) 折多地区集会施設

- 目的 1. 各職種が在宅生活を支えるための役割の相互理解を深める。
2. 各々が専門職として何ができるかということを深める機会とし活動につなげる。

〔参加者合計:116名〕



〔アンケート回答者:105名 回答率:90.5%〕



3-③ 研修会についての意見

- ・多職種の方から意見を頂くことで自分に足りない部分の気づきを得られた。
- ・在宅に向けての様々な方向から患者、家族について考え発想ができると感じた。
- ・多職種の方で意見を出し合うため、様々な視点で話を聞いたので勉強になった。
- ・患者さんとその家族を支えるために、医療関係者同士の情報の共有がとても重要なポイントになると感じた。
- ・色々な職種の方から思いもよらない意見を聞く事ができてよかった。
- ・看取りについての不安なども話せたのでよかった。
- ・わきあいあいとグループワークできて、自由に話ができよかった。
- ・自分のグループだけでなく、他のグループにも参加する事で更に多くの情報を聞くことで参考になった。
- ・CMや在宅を支えるスタッフと意見交換できてよかった。
- ・他職種の方々の患者さんへのアプローチ等、いろんなことが分かり勉強になった。

4. 在宅医療・介護連携推進について

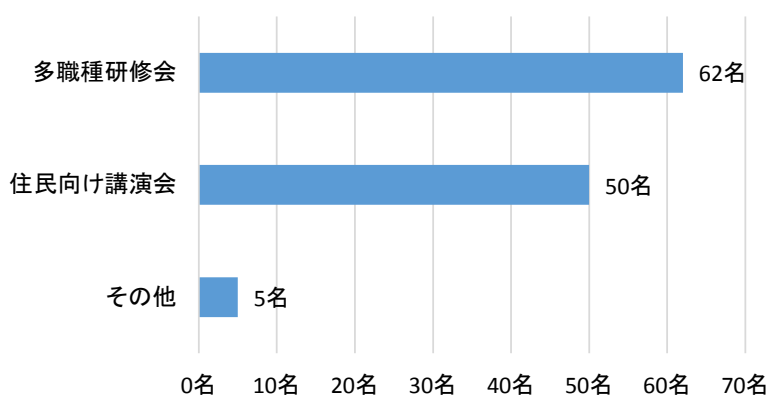
①自分達が在宅医療・介護連携推進のために取り組んでいること

- ・連絡を待つだけでなく、自ら不安のある患者のケアマネに連絡を取るなどする。
- ・積極的に他職種へ連絡、調整は心がけるようにしている。
- ・医療、介護との連携は常に考えて行なっている。情報は各部署に流すようにしている。
- ・在宅介護のスタッフに協力依頼。MCSを1日1回見る。

②在宅医療・介護連携推進で日頃感じている課題等

- ・在宅医療介護で薬物治療や薬物管理で問題がある人が多数いると思いますが、薬剤師に情報が入ってこない。
- ・かかりつけ医(在宅医)との連携がなかなか難しい。
- ・職種間の連携不足
- ・INAサポートラインが日常的に活用できるようになると情報共有が楽になると思う。
- ・状況次第では支援方法に戸惑いが出ることがあります。柔軟に対応できる様、医師も含め共通理解が必要。
- ・事例を通して多職種間での意見交換、共有する機会を増やした方が良いと思う。
- ・病院でのNsの役割
- ・在宅支援の準備不足、時間不足、家族の受け入れの為の心の準備等々
- ・サービス導入ありきになって、本人・家族の思いが反映できない。

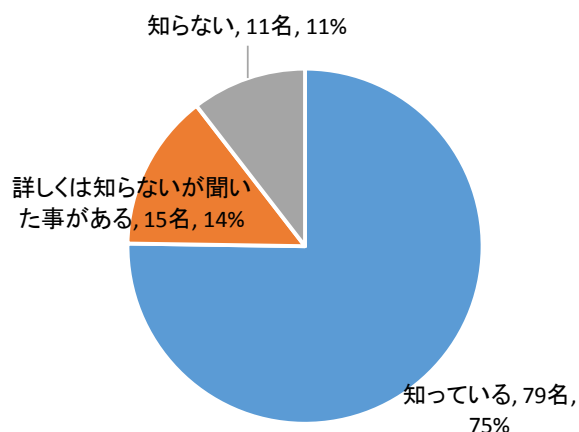
5. 今後、在宅医療・介護連携推進のために取り組みが必要と思われるもの



[その他意見]

- ・意見交換・スタッフへの周知
- ・住民が在宅医療介護連携をイメージできる取組
- ・在宅医と顔を合わすことのできる機会
- ・INAサポートラインの活用推進
- ・在宅が見えるNsの教育

6. INAネットを知っていますか？



7. INAだよりを知っていますか？

